



○訃報 本會理事中川正左氏令息讓二氏（十九歳）は過日死去せられ其告別式が四月十一日自宅にて行はれた、本會よりは花環一個を贈呈し且代表者參列して哀悼の意を表した。

鐵道省建設局計畫課長池原英治君は昭和七年十一月十二日、本會主催の萬國道路會議調查會第四分科委員會の委員となられ、爾來本委員會の爲に盡瘁せられたるも去る四月二十一日溘焉として遠逝された、同君の遺功を偲びて厚く感謝の意を表す。

### ◎國際道路問題調查委員會

○第一分科委員會

雜報

第一分科委員は過般各府縣に紹介したる報告を整理し前號所載の各分擔事項を調査研究中

○第二分科委員會

第二分科委員會は四月二十二日（土曜日）午後一時より同八時まで日本俱樂部に開催、委員岩澤君、中島君、西川君、菊地君、大村君（大阪市役所）、長島君（名古屋市役所）山本君（東京市役所）、松浦君、大道君並に都筑幹事出席し報告決議したる事項左の通り

一 報告

都筑幹事はゼネバ萬國道路會議事務局より議題變更通知に接したる内第二分科委員會に關する部分を報告し、岩澤委員長詳細説明あり、次で各委員の調査研究中の問題及び分擔事項を報告ありたり。

二 決議

イ 各委員の報告を岩澤菊地兩委員整理研究すること

ロ 各委員報告中の材料に關する問題は西川委員整理研究すること

究すること

ハ 次回は五月五日午後一時開催のこと

○第三分科委員會

第三分科委員會は前々號所載の各分擔事項を調査研究中

○第四分科委員會

第四分科委員會第十回第一小委員會は四月七日午後一時

より同五時まで内務省東京土木出張所會議室に開催、委員

佐藤君、堀君、榎君、近藤君、平山君、伊藤君、大君、松田君、志賀

君並に都築幹事出席審議決定したる事項左の通り

一 平面交叉と立體交叉の採擇規準案公式審議

二 次回は昭和八年四月十三日開催のこと

第四分科委員會第十一回小委員會は四月十三日午後三時

より同六時まで丸ノ内帝國鐵道協會に開催、委員佐藤君、榎

君、近藤君、平山君、伊藤君、大君、松田君（富永）君並に都築幹事

出席審議決定したる事項左の通り

一 平面交叉と立體交叉の採擇規準案公式議了

二 駐車線幅（保留事項）議了

三 次回は四月二十六日鐵道協會に開催のこと

○第五分科委員會

第五分科委員會は各委員分擔事項を調査研究中なり

○第六分科委員會

第六分科委員會は各委員分擔事項を調査研究中なり

◎全國交通網調查會設立

我國交通の急速度に進展したることは事實であるが去り

とて之が如何なる状態にあるか正確な調査がない、茲に全

國交通網調查會の設立せられたることは現時に於ける機宜

の企圖である。寔に同慶の至である吾々は其發達を切望す

る。其の創立の状況左の如し

第一回開會 昭和八年四月七日午後五時、丸ノ内日本俱

樂部に於て設立協議を遂げられた。當日出席者は

水野鍊太郎氏 潮 惠之輔氏

久保田敬一氏 大橋 八郎氏

古川阪次郎氏 其の外

港灣協會より

唐澤 俊樹氏	淺野 平二氏
雪澤千代治氏	三橋 信二氏
丹羽 鋤彦氏	
帝國鐵道協會より	
池田 嘉六氏	日 淺 寛氏
岡 野 昇氏	村井二郎吉氏
谷口 守雄氏	
日本交通協會より	
片岡 直道氏	喜安健次郎氏
寛 正太郎氏	中野金次郎氏
中川 正左氏	
道路改良會より	
中川 吉造氏	武井 群嗣氏
小畑敏四郎氏	
幹事として、久保義雄氏（港灣協會）加藤英一氏（鐵道協會）笠松慎太郎氏（日本交通協會）都筑通督氏（道路改良會）	

中川正左氏から「鐵道、港灣、船舶、航空、道路運送等各種交通網に關する綜合的調査研究を爲さんが爲めに全國交通網調査會を設立するの必要を感ず、從來の交通網關係は内務、鐵道、遞信の三省に於て擔任せらるゝ所なるも法令の制定發布、施設の實行上往々連絡統制を缺き或は官私間意志の疏通十分ならず爲めに種々の不利不便な結果をもたらすの虞がある、夫れに關係三省の交通關係當局者及交通關係の權威者其他當業者で組織し臨機の諮問に答へ或は必要の建議を爲すこととせば其効果は見るべきものがあることを確信す之れ本會設立の理由とする所である旨を述べられた、水野鍊太郎氏は道路改良會長及港灣協會會長との立場から本會の設立は國家的に見ても必要であるが政府當局に於ても法令の制定施行上大なる利便を得らるゝものである主旨を述べられ、古川阪次郎氏は從來は鐵道港灣道路との連絡施設上兎角不便を感じた、殊に港灣の事は内務遞信當省は勿論大藏省と協調を要することが尠なくない又鐵道網の決定には港灣道路方面にも考慮し足並を揃へて協調

し行くことの點から見ても本會の設立は必要であると述べられ、久保田鐵道次官は本會の如き斯界の權威者が組織する會合は其運用に於てよろしきを得るならば將來交通省を新設すると同様の効果を見ることを得るならん、又從來各官廳の施設は兎角自己本位となり易き憾があつたが今後は可成互讓協調して斯る弊習を一掃し不絶高所大所から見ても國家全般の利便を促進する上に大なる効果があることでもあり尙又特に鐵道問題に關しては吾々の先輩である各位から隨時有要の助言指導を賜はることとなるから本會の設立を喜び其の決議は之れを尊重すると共に考査の上出來得る丈け其の實行を期する次第なる旨を述べられた、斯くて協議事項に關しては(一)今後の會場は帝國鐵道協會(二)

事務所は當分日本交通協會内(丸ノ内郵船ビル内)に置くこと(三)本會の事務は加藤英一(帝國鐵道協會)笠松慎太郎(日本交通協會)兩氏に依囑することを決定し、(1)交通網調査の範圍、(2)調査事項の順序、(3)調査方法、(4)材料蒐集の方法等を協議したるも決定せず午後七時散會した第二回は四月十四日午後五時開會古川阪次郎氏港灣協會より丹羽淺次郎氏日本交通協會より片岡氏伊勢谷次郎、寛、中川、喜安の四氏、帝國鐵道協會よりは池田谷口村井日淺の四氏道路改良會よりは中川武井前川小畑の四氏其外久保笠松加藤都筑四幹事出席し意見の交換を爲して午後八時散會せり。

昭和八年四月現在の各府縣土木部課長、道路課長並に道路及び土木主事氏名一覽表

(○印は部長)

部 課 長	道路課長	道 路 主 事	土 木 主 事
北海道 ○畑山四男美	神保 金衛	北村 奥松 和田清太郎	
東 京 ○來島 良亮	金子源一郎	高澤 義智 林田 芳德 板倉聰一郎	芝田 孚
		福澤 善司 田村 三郎	

京都

○村山喜一郎

丹羽 氏行

戸田廣次郎

大阪

○三輪 周藏

河野德太郎 田口高重郎 波若 敏郎

藤井彌太郎

神奈川

○田邊 良忠

村瀬 吉雄

望月 隆治 徳田 茂

石村 芳夫

兵庫

○吉岡計之助

山本 廣一

河曹 貫助

窪田國三郎

長崎

楠 宗道

清野 慶藏

新潟

川上國三郎

橋本惣五郎

埼玉

田中 三郎

仁田 爲治

群馬

中村 孫一

青木 信愛

島村 信

千葉

西 義一

川又 辰三

野上 義雄

茨城

荒木 榮二

兼土木主事 淺香小兵衛

栃木

川越 篤

眞田 正一

奈良

上田 柳一

滋井善十郎

三重

上井 兼吉

齋藤彦太郎

愛知

○宮島 三郎

仲本 利夫

星野安次郎 小久江文次郎 堀内 春宗

静岡

木村憲七郎

兼土木主事 藤田 榮司

山梨

飯島馨之助

兼土木主事 前川鬼子男

滋賀

櫻井 哲三

小林常治郎

岐 阜 岩崎 雄治

長 野 兒玉 靜雄

宮 城 伊藤 麩

福 島 土肥憲二郎

岩 手 上野 節夫

青 森 三浦義太郎

山 形 木幡 長命

秋 田 丸山 悅三

福 井 淺見 洋

石 川 大石 巖

富 山 春藤 眞三

鳥 取 岸田 正一

島 根 竹内 常八

岡 山 長谷川勝伍

廣 島 後藤 季總

山 口 關谷 新造

和 歌 山 平川 保一

岩島 利六

吉澤 義長

藤森 安一

船越 久吉

村里 長太

岩切 彦吉

榮引 幾馬

吉田竹次郎

小西民之助

岩城外鐵雄

村上 正

橋本 隆義

平野 德松

和田理一郎

吉田 耕造

安村 正人

川原 義任

近藤 攻

阿部 治英

川村庄五郎

木村 賀七

東海林半三郎

德島	菅良二
香川	横山喬
愛媛	青木治助
高知	河合清
福岡	坂本一平
大分	中山熊雄
佐賀	谷堅
熊本	榊井照藏
宮崎	山田一
鹿児島	中川幸太郎
沖縄	千葉弔

棚橋 義信  
平田 冲正

森山健次郎 市丸 酉彦  
大津 壽

兼土木主事 鶴 林太郎

鈴木佐太郎

谷川 高德

吉村 桂造

松浦 忠平

◎内務省員大運動會

若人の心浮き立つ春は今、二六時中營々致々として其職に従ひ努めにやならぬ我々も時局重大の聲でこゝ二年の程は聊か休息の暇もなかつたが時には慰安と活動とを兼ねた

運動會も望ましい思ひがする、さらでたに朝々のラヂオで「吾等手足の打舞ふところ強く明るく天地も躍る」との歌につれての體操にそよる躍動する心臓の力は抑へ難い、夫れで各局でも自力更生と云ふ意氣込で大運動會を催すこととなつた、幸ひ大臣閣下の御諒解を得たのみでなく體育獎

鶉野俊太郎

勵の意味で經費は引受けらるゝとの惠澤を蒙むることとなつた。之れには一宮前參與官に感謝せざるを得ない譯もあるのである、何にはともあれ勇氣百倍したので愈青年中心の企でとなつて狭間秘書官を會長に藤原保健課長を委員長に勝俣防疫官を顧問に陣容を整へ各方面に力瘤を入れられた官房の平川事務官が庶務會計となり其の他賞品係、記録係、競技係、審判係、接待係等各適材適處主義で分擔を定めた、氣にかゝつた天氣も天長節の晴明さ、處は新緑したゝる多摩川原の京王閣で残の櫻に山吹つゝじの花盛り千紫萬紅の千草は野邊に川畔に色とりつゝの野趣、家族同伴の省員處狭ましと押し入りて其數千四五百を算した、運動場は總ての準備整ひ觀覽席には紅白の幔幕打ちめぐらし大小の應援旗は翩翩として氣勢を副へて居る、赤地に白でKANBOの官房、緑に白でCHIHUOの地方局、神社前の幟の型に神社の文字の神社局、紫地に白でサーベル印の警保局、青地に白でEISEIの衛生局、燕脂の地色に土の字を黄色に一字マークを染め抜いた藝術的だろと思はせる

土木局夫れゝの應援旗は扣處に並列しており、定刻午前八時四十分狭間會長の開會の挨拶藤原委員長の訓辭があつて國歌合唱正九時競技開始せられた百米競走から始め正午頃來賓會長等のスプリンレースがあつたが子供の團栗拾ひ其儘の光景で滿場笑ひどよめくばかりであつた、來賓子供競技は當人よりは附添ひの親達の喜ぶ様がうれしかつた、競技は進んで對局四百米リレーの終つた頃偶然來遊の松竹蒲田の俳優高尾光子、若水照子、香取千代子、水久保澄子、逢初夢子、井上雪子の諸嬢磯野秋雄君安部正三郎君等が興を添へんとて臨時飛入のスプリンレースには全衆の大喝采を博した、四百米リレーで一等官房二等土木三等警保のチーム順であつた午後にはパン喰の競技と假裝競技がヤンヤの聲を擧げさせたが假裝では女給看護婦屑屋支那人子守僧侶モダンガール等々でカヅラを忘れた坊主エプロンを後にかけた女給子守と子供と取り違へたるものなど抱腹絶倒を禁じ得なかつた競技は順序よく運ばれ豫定の四時に至らず三時には終了した最後の對局八百米リレーでは土木が一等



衛生が二等地方が三等であつた競技を終つて會長の挨拶がありて後其發聲で兩陛下の萬歳を三唱し奉り次で委員長の發聲で内務省の萬歳を三唱し歡樂極まる處を知らざりし一日の幕を閉じた。(十平)

編輯子此稿を校正して居る處へ一知人が這入つて来て、「ソリヤ何だ運動會の記事か見せ玉へ、コリヤ平凡な記事だね時に特種を提供しようかね、ナニ天機を洩せとウムよし實はナ高尾光子等のスター連が愛嬌をふりまいて將に蓮歩を運びかけた刹那一陣の旋風吹き來つたかと見る内に若々しい一紳士の帽子を空中にまき上げた、其紳士あわてふためいて双手でピカリとひかつた前頭部を押へたが其時既に帽子は轉々と競技場へととび去つた。スワ一大事と紳士は己が帽子とランニング。女優連もアラと其紳士の頭の擦々たるに驚いた、だが一人のスターが矢張り方だわね！と此紳士は果して何人であるか僕は知らないが傍の一選手に問ふたらアリヤ會長だよと光りかかやく春の日に斷然光る此運動會だ會長の光ることも尤もだと思ふた」と。

### 極樂に入るか地獄に行くか

會て鐵道省の菅健次郎氏は「働いて悪口を言はれ、遊んで居れば評判がよい階級を知つて居る人は幸なり。その人は天國に入ることを得なければなり」と言はれたが僕は更らに思ふのに「報酬の少ない者は無限に働いて報酬の大なる者は遊んで居ることの出来る社會あることを知る者は幸か不幸かそれは彼は何處に行くべきかを知らざればなり」と兎角に人間の社會は明るきが如く暗きが如く、清淨なるが如く不淨なるが如く、愉快なるが如く不快なるが如く、律義で良く働いても貧乏な生活者でありエゴイズムで而も働かないでも安樂な生活者であり得る、極樂に入り得る者が正直でなく地獄に行く者が正直であるかとも見らるゝが現在の人間社會である。疑ひ惑はざるを得ないのが。我等の環境ではあるまいか西郷南洲翁は曰く「名もいらぬ位もいらぬカネもいらぬ者は厄介者である此厄介者でなければ天下のことは共に謀ることを得ない」と世の厄介者よ汝は何處に行かんとするか。(録太郎)